
タ、ユウ、you、

aveco

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夕、ユウ、you、

【Nコード】

N6918R

【作者名】

aveco

【あらすじ】

そこは神様に創られた世界。一見争いもなく平和な世界だったが、そこには気付かれないようにそっと隠れて？バグ？が在った。それでも、人には気付かなくても、神様には気付かれる。？バグ？に気付いた神さまは――

昔物語

昔々の話です。

それは？天使^{テンシ}？たちに伝わる昔話。

それは神様^{カミサマ}が天地創造をした頃の話。

神様は世界を創ろうと思いました。

まず天と地を創りました。

地は海と陸に分け、天には太陽と月を創りました。

太陽の支配する時を昼、月の支配する時を夜と名付けました。

次に生物を創りました。

海にも陸にも沢山創りました。

動物も植物も沢山創りました。

神様は生物の中で最も神様に近い思考能力を持つものとして人間を創りました。

神様は最後にこの世界を？日本^{ニホン}？と名付けました。

それから時が経ちました。

神様はある事に気付きました。

あらゆるものが時と共に朽ちていく事に。

あらゆるものに寿命という自分は設定しなかった筈のものが在る事に。

神様は原因を探して突き止めました。

神様はその原因を？バグ？と呼びました。

？バグ？は人の形をしていました。

神様は？バグ？を無くそうと思いました。しかし、？バグ？のせいでしょうか。神様が？日本？に直接関わろうとすると力が極端に弱まってしまいます。無くす事など到底出来そうにありませんでした。

そこで神様は自分の力を一部の人間に与えました。

その人間を？天使？と名付けました。

神様は？天使？に？バグ？を倒すよう言いました。

そうして、

？天使？と？バグ？の戦いは始まりました。

昔物語（後書き）

次回からが本編です。

小夜 In a dream

そこには闇しかなかった。

しかし不思議と心細さは感じなかった。

感じたのは温かさと安らぎ。

まるで優しい母親に抱かれた赤子のような――

そこまで彼女が考えた時だった。

「やっと通じたわね、夕ユウ――夜の始まりを告げる黄昏の名を冠する者」

声が聞こえた。

それを聞いた途端、何故か懐かしさを覚えた。

それと同時に、涙が溢れ出た。

悲しみとは別の衝動が込み上げて。

彼女は泣いた。

泣きながら問うた。

「あ、貴方……は、誰……ですか？」

さっきの声の主が微笑んだ――ような気がした。

顔はおろか何も見えない闇の中にいるのに。

「小夜サヨ――小さな夜、よ。一応初めましてと言っておくわ」と、その時

「小林！授業中に寝るんじゃない！」

そんな声とともに頭部に微かな衝撃。

目を開けると数学教師が教科書を持って立っている姿が見えた。

たぶんあの衝撃は教科書で頭を叩かれたものだろう。

それ以上何かを言うことはなく、そのまま教師は授業に戻っていき。

――さっきのは夢か。

夕、フルネームで言つと小林夕は漸くそう気付いた。

それぐらいリアルな夢だった。

時計を見ると授業終了まであと十分。

この授業の記憶は最初の数分しかないため、授業の半分以上の時間眠っていた事になる。

よく寝ていたなと我ながら感心しつつ、夕は一応ノートに黒板の文字を写し始めた。

——ここは神様に創られた世界、？日本？。

四つの大きな島と無数の小さな島と無限に続く海から成っている。
？天才？のおかげで文明は結構発達しており、戦争も百五十年程前に大きいのがあったが、それ以後は平和そのものである。

平和そのものでもなければこんな所で退屈で退屈で退屈な授業なんて聞いている暇などない。

——どっかで政府への抗議デモでも起きないかなあ。

そんな事を考えているうちに授業は終わる。

そつえば、と起立礼をしながら、夕は思った。

——さっきの夢、やけにはつきりと思い出せる。夢なんていつもは曖昧な記憶しかないのに。

一瞬その事を不思議に思ったが、それは一瞬のみだった。

小夜 In a dream (後書き)

念のために書いておきますが、漢字の夕とカタカナの夕は微妙にですが違います。この一応主人公である小林夕さんの「夕」をカタカナの「夕」と読まないようにお願いします。

タ After school

夕は部活などには全く入っていないため、学校が終わったらすぐに帰路につく。

学校から徒歩十分の所にあるアパートが今の夕の住まいだ。
理由^{わけ}あつて一人暮らしをしている。

今日の夕飯は昨日の残りだけで大丈夫だなーなどと考えながら歩いている夕は見た目だけはかなり綺麗な少女である。

透き通るような、それでも決して病弱には見えない白い肌や、癖っ気が全くない艶やかな黒髪に結構整っている顔立ち。そして外見だけなら華奢な体つき。

その二次元には多々在るものの、現実^{リアル}世界では希少な外見に彼女の性格を多少でも知る者は「見た目だけなら綺麗なのに」と必ず思う。

さて、夕は今狭い路地を歩いているが、前方には少女が一人歩いていた。

その少女はある曲がり角を右へ曲がり、夕もその角を右に曲がった。

曲がって、さっきの少女の姿が見えない事に気付いた。

しかし、この道は右手にはどっかの家の塀が、左手には空地（というか売地）が広がっている。

よって少女が全力ダッシュでもしない限り姿が見えるはずなのだが――

夕はそんな事を気にもせずに戻り道を急いだ。

光など一切無い世界、

夕はまたあの闇の中にいた。

——夢、か。

「また会えたわね、夕」

あの時と同じ少女の声。

「貴方は誰ですか？此処は何処ですか？」

涙こそ出ないが、この温かさも、安心感も、懐かしさも、あの時と同じ。

「此処は小夜^{わたし}の空間よ。世界と言ってもいいかもしれないわね」

「……小夜^{あなた}の世界？」

——この闇と夕と小夜^{かのじょ}しかない世界が？

「そうよ。——貴方のもう一つの問いに答える前に一つ昔話をしましょうか」

「は？……昔話？」

——何故そんな単語がここで？

「そう、昔話。三千年くらい前だったかしら」

——三千年前……それは——

「神が世界創造をした頃の話。そして神が天使を創った話」

彼女の声は真剣そのものだった。口を挟もうとは思えない程に。

「神様は世界を創ろうと思いました。

まず天と地を創りました。

地は海と陸に分け、天には太陽と月を創りました。……」

その声を聞いている内にだんだん夕の意識は薄れていき、そして

?バグ? At night

時刻は午前二時ごろ。

千年以上前ならば殆どの人が寝ていたであろう時刻。

しかし現代では昼夜逆転の生活をする人、夜更かしをする人も多くなってきたため、起きている人は結構いるだろう。

彼女もその一人だった。

街灯と頭上の月と星に照らされた道を超高速で走っている少女。

年は十五、六ぐらいだろうか。

黒いTシャツに黒いズボン、靴も黒を基調としたもので、全身黒といった感じだ。

腰まである長い髪を風に靡かせながら彼女は疾走する。

と、ある地点で止まる。

そこは何の変哲もない住宅街の中にある一見何の変哲もない家の門の前だった。

彼女はまわりを気にする風でもなく、堂々とその鍵の掛かった門を乗り越え、不法侵入。

そして道具を取り出し玄関の鍵をピッキングする——否、しようとしたができなかった。

原因はいきなり出現し、そして彼女の首に突き付けられた金属の塊——刀。

「ちよつとでも動いてみなさい。刀で貴方を頭と胴に分けてあげるから」

刀——銃火器が主流となった今では時代遅れと言われても仕方がない武器。

しかし、それで威力が衰えたわけではない。今でも人の体を切る事は可能だろう。

「リアルに首飛ばされなくなったら不法侵入をした理由を言いなさい」

彼女の後ろにはいつの間にか少女が一人いた。
彼女の首に刀を突き付けているのはその少女。

「不法侵入の理由、ね」

彼女は微かに笑った。

「挨拶、しようと思ったのよ。？バグ？の皆さんに」
ぴくり。

ほんの少し刀が揺れた。

「貴方誰よ？？天使？ではなさそうだけど？バグ？でもないわね」

「小さな夜（小夜）、よ。貴方の言う通り？バグ？でも？天使？でもないわ」

その台詞の直後、

小夜が動いて何かをしたが、速過ぎて少女には何をしたか分からなかった。

分かったのはその結果——自分の刀が柄のみを残して折れたという事。

——からん。

刀の残骸だったものが落ちる音。

「え？……………貴方……………何をしたのよ？」

少女の声にはさっきまでの余裕が無い。

「さて何をしたでしょう？」

そう言いながら小夜は振り返って少女を見た。

背の低い女の子だった。小学生くらいだろうか。

彼女の顔に浮かんでいるのは紛れもない恐怖。理解不能なものに
対する恐れ。

「一つメッセージ。夜がもうすぐやって来るわ。小夜わたしのような紛い
物じゃない本物の夜がね」

「は？え？ど、どういう事……………」

混乱した様子の少女。

「では御機嫌よう」

小夜はそれだけ言うのと呆けている少女の横を通り、門を来るとき

と同じように乗り越え——ようとしたところで

「あ、ちよつ、待ちなさいよ！」

少女の声。

しかし古今東西あらゆる場面での常識。待てと言われて素直に待つ馬鹿はいない。

小夜もその例に漏れずその声を無視して走り去って行く。

少女は勿論小夜を追いかけていこうとしたが振り切られてしまった。

少女が遅かったのではない。

あまりにも小夜が速すぎたから。

それが人間の限界というものを超えた速さだったから。

邂逅 In the morning

朝、

「不思議な夢だったな……」

夕は布団の中でそう呟いた。

今日は土曜日。学校は休み。

にも関わらず朝の六時半に目が覚めてしまった夕はそれでも五分くらい布団の中でぐだぐだしていた

夕にとって夢とは記憶にはない何かだ。

見たという事は覚えているが、内容を覚えていることは殆ど無い。なのに、最近、というか昨日の授業中の夢から始まったあのおかしな夢ははつきりと覚えている。

さらに、昨日の夢の最後に登場した世界創造の話。

途中までしか聞けなかったが、あれは？日本？中の言葉がわかる人なら皆知っている話だ。

『神様は世界を創ろうと思いました。

まず天と地を創りました。

地は海と陸に分け、天には太陽と月を創りました。

太陽の支配する時を昼、月の支配する時を夜と名付けました。

次に生物を創りました。

海にも陸にも沢山創りました。

動物も植物も沢山創りました。

神様は生物の中で最も神様に近い思考能力を持つものとして人間を創りました。

神様は人間へ贈り物としてかなり高い思考能力を持つ者——？天才

？と神様の力の一部を扱える者——？天使？を創りました。

神様は最後にこの世界を？日本？^{ニホン}と名付けました。』

——何故そんな話が夢に？

まあ所詮は夢の話だと思い、とりあえず起きようと布団の中から出た。

布団を片付け、着替えをし、食パンを焼かずにそのまま頬張ったところで——

——ピンポン

玄関のチャイムが鳴った。

夕は食パンを三秒で食べるという荒業をしてから玄関のドアについているのぞき窓で外を見る。

そこにいたのは全く見覚えの無い一人の少年と一人の少女。それを見た夕は何の警戒もせず鍵を開けた。

「どちら様でしょう？」

「僕の名前は萩野透。はきのうたへこっちの小つこいのは今川霞いまがわすみと言います」

「小つちゃくない！」

少年の自己紹介に即座に反論した少女だが、事実小さい。夕の目測では小学校高学年の平均身長を少し下回るくらいと思われる。

「貴方がサヨさんですか？」

少年（と言っても夕と同じくらいの年に見える）の方がそう質問してきた。

サヨ——夢の中に出てくる少女の名前は小夜。さよ偶然なのだろうか。

「違いますけど」

と夕が言った途端、

「嘘っ！貴方夜中にむぐっ」

少女が叫びだしたが少年に口を塞がれる。

「これの言う事は全て無視してもらって結構です」

無表情な少年が全く抑揚の無い声で言った。

ちなみにどうでもいい事だが「これ」は人代名詞ではない。

小柄な少女が口を塞がれてむーむー言っている姿はとても可愛いのだが——

夕は初対面の筈のこの少女に何故か既視感を覚えてしまった。
誰か似た人にでも会った事があっただろうか。

「本当にサヨという人ではないんですね？」

「さっきそう言いましたけど」

「そうですか。……すみません。どうも勘違いしてしまったみたいです」

少年の無表情のせいで本当に謝っているのかどうか分かりづらい。

「あともう一つ聞きたい事があるのですが」

「何ですか？」

「？バグ？という言葉に聞き覚えはありませんか？」

「？バグ？という単語を聞いた瞬間だった。

どくん、

という心臓の鼓動が聞こえた気がした。

それと同時に視界が歪み、歪み、そして――

気が付けばあの夢の世界にいて小夜の声を聴いていた。

「太陽の支配する時を昼、月の支配する時を夜と名付けました。

次に生物を創りました。

海にも陸にも沢山創りました。

動物も植物も沢山創りました。

神様は生物の中で最も神様に近い思考能力を持つものとして人間を創りました」

それは夢の続き。

「神様は最後にこの世界を？日本？と名付けました」
ニホン

それは殆どの人が知らない世界創造のその後の話。

「それから時が経ちました。

神様はある事に気付きました。

あらゆるものが時と共に朽ちていく事に。

あらゆるものに寿命という自分は設定しなかった筈のものが在る事に」

？天使？のみに伝わる？天使？が創られた本当の理由。

「神様は原因を探して突き止めました。

神様はその原因を？バグ？と呼びました。

？バグ？は人の形をしていました。

神様は？バグ？を無くそうと思いました。しかし、？バグ？のせいでしょうか。神様が？日本？に直接関わろうとすると力が弱まってしまう。無くす事など到底出来そうにありませんでした。

そこで神様は自分の力を一部の人間に与えました。

その人間を？天使？と名付けました。

神様は？天使に？バグ？を倒すよう言いました。

そして——？天使？と？バグ？の戦いは始まりました。」

そこで夕の意識はまた途切れた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6918r/>

タ、ユウ、you、

2011年4月2日14時55分発行